

事例 17 高等学校のOJT実践事例

働き方改革ワーキンググループを中心とした業務改善に

若手教員の力を生かす

【主幹教諭として】

本校は、学年8クラス、全体で千人近い生徒が在籍する大規模校である。部活動が盛んで、地域連携・社会貢献・国際交流活動等に積極的に取り組んでいるため、教育活動が充実している反面、業務量も多い。そのような中、2019年度に業務改善推進モデル校として指定を受けたことを契機に、働き方改革ワーキンググループ（以下、WG）を立ち上げ、若手教員を中心として業務改善に取り組んだ。

〈取組の内容〉

〇WGの発足

6月 「学校における働き方改革推進プラン」を作成し、職員に本校の課題を洗い出すためのアンケートやインタビューを実施した。

7月 職員会議で課題を共有した。

8月 WGの設置など取組の方向性を決定した。

9月 WGのメンバーを募集した。

有志を募ったところ、興味を示した若手教員がいたので、若手教員を中心にWGを組織することとした。

第1回WGでは、課題を検討し、解決策の役割分担などを決めた。

〇若手教員の視点から業務を見直す

第2回WGはオフサイト会議（会議室ではなく自由に議論ができる環境で行う会議）形式で実施し、若手教員が考えた解決策を持ち寄って検討した。様々なアイデアの中でも、「働き方改革プロモーションビデオ（PV）の制作」は、若手教員ならではの発想だった。制作の目的は、「PVを視聴してもらい、働き方改革にベテラン教員を巻き込んで全校体制で実践する」ことである。それぞれが学校を見つめ直して考えてきた他の解決策からも、学校をより良くしようとする誠意と熱意が感じられた。

検討した解決策を職員会議で発表すると、「学校への貢献がすごい」「感動した」などの称賛の声が上がった。若手教員の取組が認められ、WGがOJTの場として機能する手応えを感じた。

【業務改善案】①調査書発行手続き簡略化

③定期試験期間中の休暇取得推進

⑤勤務時間外の電話対応

⑦学習活動におけるICT機器とノート等の効果的な使い分け

②会議資料電子化

④TeamsやSharePointの有効活用

⑥「働き方改革アンケート」の研究開発

これが成功の鍵！

⑥役割を与える、仕事を任せる

若手教員を業務改善の推進役にしたことで、学校経営への参画意識が芽生え始めました。

また、若手教員ならではの視点で学校を見つめ直すことで、新たな発想が生まれました。

③教員同士が交流しやすい場面をつくる

オフサイト会議形式により、環境が変わることでメンバーの気分も変わり、率直な意見を引き出すことができました。

【教職2年目教員の声】

教職経験が浅い中で、学校経営全体を把握する良い機会となりました。先輩方の意見を聞くことができ、学校経営に対する自分の考えを形成していくことができました。また、多くの先生方とつながりが深まったこともよかったです。

【教職7年目教員の声】

WGでは、これまで個人的に感じていたことを共有できてうれしかったです。同僚の考えも把握することができ、共感できる内容がたくさんありました。また、学校全体を俯瞰する機会にもなり、視野が広がったと感じています。



オフサイト会議の様子

〈取組の成果〉

- ・若手教員が中心となって働き方改革を推進したことで、多くの職員が応援してくれた。PVを上映した際には、WGメンバーに称賛の声が上がり、職員の一体感が生まれた。
- ・元々は、業務改善推進が目的で立ち上げたWGであったが、若手教員中心に構成し、役割を与えたことで、結果的にミドルリーダーの人材育成につながった。